

イエス・キリストの啓示 - 第十三号

天における戦いと終末の時代：黙示録12章と13章から預言の時系列を解き明かす

Jeff Pippenger

2023-11-09

私たちは、ヨハネの黙示録第12章に記された天における戦いが何を指すのかを明らかにしてきました。キリストの品性はアルファでありオメガであるという原則を用いて、私たちは第12章の天における戦いを、「終わりの日々」に起こる天における戦いの予表として理解してきました。聖書と『預言の霊』における「終わりの日々」という表現は、調査審判の最後の時期を意味します。

私たちは、第12章と第13章に出てくる三つのサタンの勢力を、過去の歴史において成就した勢力としてではなく、世界をハルマゲドンへと導くそれらの勢力の現代的成就として特定している。第12章の竜は国際連合であり、アメリカ合衆国における日曜法の際に復活するとされるカトリック教会は第13章の海の獣であり、二本の角を持つ地の獣はアメリカ合衆国である。

私たちは、第十二章で慣例的に、天におけるルシファーの反逆を専ら表すものと理解されてきたその戦いが、実際には、アメリカ合衆国において間もなく施行される日曜法を起点として、地上の天で起ころうとしている戦争を描いていることを明らかにしてきた。私たちはまた、黙示録十三章十一節から十七節に示されている、獣の像の形成を見分けることを含む試練の過程があることを確認してきた。獣の像は、教会がこの関係を主導するかたちでの教会と国家の結合を表している。教会が主導権を握ると、国家を用いて自らの教義を強制し、自ら異端と定めた者たちを迫害する。獣の像の形成に伴う全世界的な試練の過程は、まずアメリカ合衆国において行われる。これら二つの試練の過程の預言的特徴は、アメリカ合衆国であれ世界であれ、本質的には同じである。

私たちは、十字架の前後にあった千二百六十日の同一の二期間を、世の終わりにおける獣の像に関する二つの連続した試練の過程を特定するための第二の証しとして指し示した。2001年9月11日からやがて施行される日曜法までの間にアメリカ合衆国で獣の像が形成されることは、その日曜法の後に国際連合で獣の像が形成されることに先立つ。キリストのバプテスマから十字架までの奉仕の千二百六十日は、十字架の後に弟子たちの奉仕が続いた千二百六十日に先行していた。この二つの線は、それぞれの期間で同一の試練を表す二つの期間を含んでおり、キリストの像か反キリストの像かという主題を表している。

十字架で終わったキリストの宣教期間の千二百六十日は、彼の洗礼の際に聖霊が下ったときに始まり、2001年9月11日に下った黙示録18章の力ある天使と一致している。

「いま、私がニューヨークは津波によって一掃されると宣言した、という話が出ていますか。私はそのようなことは一度も言っていません。そこに次々と階を重ねて建ち上がっていく巨大な建物を見ながら、私はこう言いました。『主が立ち上がり、こ

の地を激しく揺り動かされるとき、どれほど恐ろしい光景が起こることだろう！そのとき、黙示録18章1節から3節の言葉が成就するだろう。』黙示録第18章全体は、この地上に臨もうとしている事柄への警告です。しかし、ニューヨークに何が起ころうとしているかについて、私には特別な光は与えられていません。ただ、いつの日か、そこでそびえる大建造物が、神の力によってひっくり返され、打ち倒されることは知っています。私に与えられた光によって、私は世に破壊があることを知っています。主の一言、全能の力のひと触れによって、これらの巨大な建造物は倒れるのです。私たちの想像を絶するほどの恐ろしい光景が起こるでしょう。」 Review and Herald、1906年7月5日。

キリストの歴史において十字架で終結した千二百六十日の期間は、間もなく到来する日曜法で締めくくられる時期を表している。十字架は日曜法の型である。両者はともに裁きの象徴である。また、裁きが起こるその国に国家的破滅の到来を意味している。どちらもユダの栄光の地で起こった。キリストの歴史ではそれは文字どおりのユダの栄光の地であり、日曜法においては霊的な意味でのユダの栄光の地、すなわちアメリカ合衆国である。十字架において、キリストはすべての人を御自身のもとへ引き寄せるために高く上げられた。

そして、わたしが地上から上げられるなら、すべての人々をわたしのもとに引き寄せる。これは、彼がどのような死を遂げることになるかを示して言われたのである。ヨハネ 12:32、33。

日曜法のとおり、すべての人々をキリストのもとに引き寄せるために、十四万四千人の旗印が掲げられる。

彼は遠方の諸国民に向けて旗印を掲げ、地の果てから彼らを口笛で呼び寄せる。見よ、彼らは急いで、すみやかにやって来る。イザヤ書 5:26

キリストの歴史において十字架に続く千二百六十日の期間は、ステパノの石打ちの際にミカエルが立ち上がることで終わる。

しかし、彼は聖霊に満たされ、天をじっと見つめ、神の栄光と神の右に立っておられるイエスを見た。そして言った。「見よ、天が開け、人の子が神の右に立っておられるのが見える。」使徒の働き7:55、56。

獣の像の最後の試練の時の象徴的な四十二か月は、ミカエルが立ち上がることで終わり、人類の恩恵期間の終結を告げる。

その時、あなたの民の子らのために立っている大いなる君ミカエルが立ち上がる。その時には、国が存在して以来その時までかつてなかったほどの苦難の時が訪れる。その時、あなたの民のうち、書に名が記されている者は皆、救い出される。ダニエル書 12:1

「獣の像」に対する二つの試練の過程の全史には、他にも内的な預言的な証しが含まれている。これを正しく理解するならば（この真理を理解している人は少ないことを私は認めるが）、アメリカ合衆国で成就する最初の「獣の像」の試練の過程は、第三の災いが歴史に到来した2001年9月11日に始まった。その最初の「獣の像」の試練の過程の終点と

なる日曜法は、日曜法の制定に対するアメリカ合衆国への裁きとして、第三の災いの到来を示す。その時、第三の災いの到来は、黙示録11章18節にある「諸国が怒る」を成就し、また聖書預言においてイスラムが諸国を怒らせるという役割について最初に言及されることの成就ともなる。

彼は荒々しい人となり、彼の手はすべての人に敵対し、すべての人の手は彼に敵対する。彼はすべての兄弟たちの面前に住むであろう。創世記 16:12.

間近に迫っている日曜法は、最初の試練の期間の終わりであり、同時に最後の試練の期間の始まりでもある。最後の試練の期間は、人類の猶予期間が閉ざされるときに終わり、その時点で、第三の災いの象徴である四つの風が完全に解き放たれる。

救い主は、ユダヤの民の中に神から離反した民の姿をご覧になったとき、世と教皇権とに結びついた名ばかりのキリスト教会の姿もまたご覧になった。そして、オリーブ山に立ち、西の丘の向こうに日が沈むまでエルサレムのために涙を流されたように、今、この終わりの時の最後の瞬間に、罪人たちのために涙を流し、彼らに懇願しておられる。まもなく、四つの風を押さえている御使いたちにこう言われるだろう。「災厄を解き放て。わたしの律法を犯す者たちの上に、闇と滅びと死を臨ませよ。」かつてユダヤ人に言われたように、多くの光と知識を与えられてきた者たちに対しても、こう言わねばなくなるのだろうか。「ああ、もしこの日、せめてあなたにでも、あなたの平和に関わることがわかっていたら！ しかし今や、それはあなたの目から隠されている。」レビュー・アンド・ヘラルド、1901年10月8日。

キリストの歴史において、一千二百六十日の最初の期間の第一の道標は、彼の死と復活の象徴であった彼の洗礼に置かれた。その期間は彼の死と復活で終わり、同時に最後の一千二百六十日の期間が始まった。その期間は、ステパノの死と約束された復活をもって終わった。

キリストの像を表す歴史の流れは、反キリストの像を表す歴史の流れと同一の預言的構造を持っている。

聖書によれば、キリストは真の北の王であり、サタンの目的は常に、キリストの王権を覆し、偽って模倣することにある。

なんとおまえは天から落ちたことか、暁の子、ルシファーよ！
国々を弱らせた者よ、なんとおまえは地に切り倒されたことか！ おまえは心の中で言った、『私は天に上ろう。神の星々の上に私の王座を高く据えよう。私はまた、北の果てにある会衆の山に座ろう。私は雲の頂よりも高く上り、いと高き方のようになる』と。イザヤ書 14:12-14

「『北の側』とは、大いなる王の都であるエルサレムのこと、そこに彼の聖所がある。」

コラの子らのための歌、詩。主は大いなる方。われらの神の都、その聖なる山において、大いに賛美されるべき方。その立地の美しさにおいて麗しく、全地の喜びであるシオンの山は、北の方の山腹にある大いなる王の都である。詩篇 48:1, 2.

聖書において、この地上の「北の王たち」は、常に神の民の敵として描かれている。彼らは、真の「北の王」を偽って自らがその座に就こうとするサタンの企てを表している。その真の「北の王」は、エルサレム、すなわち「北の方」と呼ばれる所で王座に就いておられる。獣の像の二つの試練の過程を表す線は、キリストの像の二つの試練の過程を表す線と並行しており、神の民を支配する北の王になろうとするサタンの企てという主題において、第三の証言が見いだされる。

紀元前723年に、アッシリアによって代表される北の王は、レビ記26章の「七つの時」の成就として、イスラエルの北の十の王国を奴隷として連れ去った。一千二百六十年後の538年には、北の王は当時は文字どおりの異教ローマによって代表されていたが、王座を教皇ローマに譲り渡し、こうして教皇ローマはさらに一千二百六十年間、霊的な北の王となった。その第二の一千二百六十年の期間は1798年に終わり、そのとき霊的なローマの北の王は致命的な傷を受けた。1798年に教皇権が致命的な傷を受けたとき、それは人類の猶予期間の終結を象徴し、復活した教皇権がついに永遠に、誰の助けもなくその終わりに至るときを示した。

彼は栄光の聖なる山において、海と海の間とその宮の天幕を張る。しかし、彼はその終わりに至り、彼を助ける者はひとりもない。その時、あなたの民の子らのために立っている大いなる君ミカエルが立ち上がる。国が成って以来、その時までかつてなかったような苦難の時が来る。その時、あなたの民は救い出される。すなわち、書に記されていると見いだされる者は皆。ダニエル書 11:45、12:1。

レビ記26章の「七つの時」は2520年に相当し、紀元前723年にアッシリアを「北の王」として特定し、北の王であった彼は古代イスラエルの「北王国」を征服した。その時以降、アッシリアに始まり異教ローマに至るまでの異教が、ダニエル8章13節の「軍勢」である神の民を1260年間踏みにじった。538年には、文字通りのローマの北の王が、預言的には霊的なローマの北の王に征服され、彼はさらに1260年間、神の霊的イスラエルを踏みにじった。二度目の踏みにじりの期間は、1798年に霊的なローマの北の王が致命的な傷を受けて終わった。

キリストの像の線上では、中心点は十字架であり、そこで死が示される。獣の像の形成が試される二つの期間において、中心点は地の獣の死である。偽りの北の王の線上では、中心点は文字通りのローマの北の王の死である。

これらの線は三つの聖書的な証人を表しており、それぞれが一つの期間の中に二つの連続する期間を含んでいます。それぞれの中心点は、肉体的な死、または聖書の預言における王国の死によって示されています。キリストの場合、その中心点は彼の死と復活でした。獣の像に関しては、その中心点は日曜法において、地の獣、すなわち聖書の預言における第六の王国の死です。偽りの北の王の線では、その中心点は、聖書の預言における第四の王国である文字どおりのローマの北の王の死を表しています。

『大争闘』においてシスター・ホワイトによれば、黙示録11章の二人の証人は神の言葉を象徴している。キリストは神の言葉である。その二人の証人は荒布をまとって一千二百六十日のあいだ預言する権威を与えられた。彼らはその後、通りで殺され、三日半のあいだよみがえらなかつた。「一千二百六十日」と「三日半」は、いずれも一千二百六十年の

荒野の期間の象徴である。彼らは荒布をまとって預言する権威を与えられるところから始まり、それは死によって終わった。それから同じ預言的期間のあいだ、彼らは沈黙し、死をまとっていたが、やがて恩恵期間の終結を告げる第三の天使の警告を宣べ伝えるために復活させられた。

これら四つの預言的な線は、四つの証しに相当する。四つの証しそれぞれの預言的構造は同一である。四本の線に見出される八つの各時期の期間は、2001年9月11日から間もなく訪れる日曜法に至る時期だけを例外として、預言的に同一である。すべての中心点は何らかの死を表している。四本のうち二本の線はキリストを扱い、その御姿として、または神の言葉として示している。残る二本の線は反キリストを表し、北の王としてのキリストを偽って模倣しようとする彼の欲望、またはキリストの統治制度を偽って模倣しようとする欲望を示している。

今回の記事では、十四万四千人と第一の天における戦いを関連づけて考察します。親愛なる読者、または聴者の皆さんへ。あなたがこれらの真理を認めるか認めないかにかかわらず、次の点を指摘しておく必要があります。すなわち、これらすべての記事で提示されている情報は、物事の終わりを見極めるためにその初めを用いるという原則を適用することによって特定され、その後も裏付けられ、一貫して支持されているということです。これはアルファでありオメガである方の預言的なしるしであり、今まさに封印が解かれつつあるイエス・キリストの啓示の大きな要素です。

隠されたことは、私たちの神、主のもの。しかし、明らかにされたことは、永遠に、私たちと私たちの子どもたちのもの。それは、私たちがこの律法のすべてのことばを行うためである。申命記 29:29。